国語科(古典)学習指導案

一　日　時　　平成二十七年十二月七日（火曜日）　第五時限目（五十分）

二　学　級　　第三学年六組（男子二十三名、女子十八名）

三　単元名　　俳句を鑑賞しよう。

四　単元の目標

⑴　文章の展開を的確に理解し、書き手の意図を捉え、作品を読み味わおうとする。（関心・意欲・態度）

⑵　文章の展開を的確に理解し、書き手の意図を捉え、作品を読み味わう。（読む能力）

⑶　古典を読むことに必要な、時代背景や風習、文化を理解する。（知識・理解）

五　取り上げる言語活動と教材

⑴　言語活動

『去来抄』から読み取れる芭蕉の俳諧の本質をもとに、俳句を論拠を明らかにしながら批評する。

⑵　教材　『去来抄』〈「古典B」（東京書籍）〉、『去来抄』、『三冊子』

六　単元の具体的な評価規準

⑴　芭蕉の論じる俳諧の本質を的確に理解し、書き手の意図を捉え、俳句を読み味わおうとしている。（関心・意欲・態度）

⑵　芭蕉の論じる俳諧の本質を的確に理解し、書き手の意図を捉え、俳句を読み味わっている。（読む能力）

⑶　俳諧文学や芭蕉について理解している。（知識・理解）

七　指導観

⑴　単元観

俳諧文芸の豊かな世界を学ばせたい。

⑵　学習者観

知的好奇心が旺盛で、グループ学習にも積極的に取り組む。本文に根拠を求めつつ読みを深めることを継続的に行ってきており、本文に立ち返る姿勢が定着してきた。これまでの学習を踏まえてその次の段階として、本文から理論を学び、それを使って実践的に俳句を鑑賞、批評させたい。

⑶　教材観

『去来抄』の芭蕉と去来の発句をめぐる具体的なやりとりから、芭蕉の論がいかに的確で俳諧の本質を捉えているかを学ばせたい。そして、それを摸す形で実際に俳句を批評させることで、俳諧の世界を味わいつつ、論理的に思考することを実体験させたい。

次（時間）	学習内容	言語活動における指導上の留意点	○評価規準、●評価方法、＊「努力を要する」状況と判断した生徒への具体的な手立て
第一次 一時間	・『去来抄』を読み、芭蕉の説く俳諧の本質を理解する。	・『去来抄』を読み、「月の客」が、去来の意図と芭蕉の解釈とでは、どのように違っているのか、現代語訳して整理させる。 ・芭蕉の解釈の深さが、作者の創作意図を上回ることに気づかせる。	○(1)(3) ●「発言の観察」 ＊必要に応じて、隣同士のペアで取り組ませる。 ○(2) ●「記述の確認」ワークシート
第二次 一時間 （本時）	・前時の学習内容を踏まえて、俳句を鑑賞・批評する。 ・論拠を明確にしながら、どちらが優れているのか発表する。 ・俳諧の本質について理解を深める。	・グループごとに割り当てられた俳句二句のうち、どちらが優れているか根拠を示しながら批評させる。 ・芭蕉の説く俳諧の本質を論拠にして、どちらがより世界の広がりを感じることができ優れているのか、説明させる。 ・ここまでの学習内容を踏まえながら、芭蕉の説く俳諧の本質について自分の考えをまとめさせる。	○(2) ●「記述の確認」ワークシート ○(1) ●「発言の観察」 ＊意欲的に取り組むよう声を掛ける。

九　本時の目標

・論拠を持って俳句を批評し、俳諧への理解を深める。

十　本時の評価規準

・論拠を持って俳句を批評し、俳諧への理解を深めている。

十一　本時（全時間中の二時間目）の指導

学習段階	学習内容	学習活動	言語活動における指導上の留意点
導入 （五分）	・本時の学習内容を知る。	①・ワークシートを見て学習の意図を知る。 ・グループを作る。	①・ワークシートを配付し、活動の意図を意識させる。
展開① （三十分）	・俳句を鑑賞、批評し、根拠をあげて述べる。	②・二句の俳句のどちらが優れているかグループで話し合い、その論拠をワークシートに記入する。 ③・グループで話し合ったことを発表する。 ④・『去来抄』の本文を読み、芭蕉がどのように論じているのかを知る。	②・机間指導をする。 ・前時の学習内容を踏まえて、助詞などの細部にこだわり、論拠を明らかにしながら話合いを進めるよう促す。 ③・論拠を明確にして発表するよう注意を促す。 ・発表を聞き、気づいた点があればワークシートに加筆修正させる。 ④・『去来抄』を読み、グループの着眼点を検証し、自分たちの批評を深めさせる。
終結 （十五分）	・学習内容を振り返りまとめる。	⑤・二句の俳句のどちらが優れているか、再度述べる。 ・振り返りの感想を書く。	⑤・ここまでの学習内容を踏まえた上で、再度俳句を批評させる。 ・グループの話合いの結果と自分の考えが、異なってもかまわないことを伝える。

十二　御高評

俳諧ワークシート①　　組　　番【　　】

岩鼻やここにもひとり月の客　　去来

先師上洛の時、去来言はく、「洒堂はこの句を『月の猿』と申し侍れど、予は『客』まさりなんと申す。いかが侍るや。」先師言はく、「『猿』とは何ごとぞ。汝、この句をいかに思ひて作せるや。」去来言はく、「明月に乗じ山野吟歩し侍るに、岩頭また一人の騒客を見つけたる。」と申す。先師言はく、「ここにもひとり月の客と、己と名のり出でたらんこそ、いくばくの風流ならん。ただ自称の句となすべし。この句は我も珍重して、『笈の小文』に書き入れける。」となん。

退きて考ふるに、自称の句となして見れば、狂者のさまも浮かみて、初めの句の趣向にまされること、十倍せり。まことに作者その心を知らざりけり。

・酒堂…「月の猿」と置き換え。伝統への安易な依存

・去来…「月の客」を発見する　　他称の句。

・芭蕉…「月の客」と名乗る。　　自称の句。

優れた俳句とは、

俳諧ワークシート②　　組　　番【　　】

一、どちらの句が優れているか？（記号に〇をつける）
二、どのような点から、そう言えるのか？（論拠を明らかにしながら説明する）

①
A　辛崎の松は花より朧にて
B　辛崎の松は花より朧かな

②
A　曙や白魚白きこと一寸
B　雪薄し白魚白きこと一寸

③
A　凩の地にもおとさぬしぐれ哉
B　凩の地迄おとさぬしぐれ哉

三、『去来抄』『三冊子』から、芭蕉の考えを知ろう。（別紙参照）

四、再度、俳句を批評しよう。（論拠を明らかにして述べること）

五、これまでの学習を振り返って感想を述べよ。

教師用ルーブリック

観点	A	B	C
	3	2	1
論拠をもって俳句を批評し、俳諧への理解を深めることができる。	根拠を正しく示して、説得力のある批評を述べることができる。	根拠を示して、批評を述べることができる。	根拠を示して、批評を述べることができない。